

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：62618

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652102

研究課題名(和文) 公用語の地域差に関する社会言語学的総合研究

研究課題名(英文) Sociolinguistic general research on the regional differences of public terms

研究代表者

井上 史雄 (INOUE, Fumio)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・客員教授

研究者番号：40011332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「公用語の地域差に関する社会言語学的総合研究」という新テーマに関して、徹底的にデータを集め、分析した。従来見落とされていた斬新なテーマとして、公共場面での意識的使用、談話としての方言差および気づかない方言や方言景観を取り上げた。地方議会会議録のデータベースを活用し、新しい研究技法を採用した。さらにインターネット上から情報を得て、世界の諸言語・方言の国際的相互普及も探求した。方言景観のデータを収集して分析した。以上のデータを分析し統合することにより、日本語および世界諸言語の地理的変異と文体的変異の関連を把握しえた。

研究成果の概要(英文)：In this research, data was thoroughly collected and analyzed for the new theme "sociolinguistic general research on the regional differences of public terms." As a novel theme which have been overlooked in conventional dialectology, intentional dialect use in a public scenes, dialectal differences in discourse, unnoticed dialect differences and dialect landscape were taken up. The database of the records of local assemblies was utilized and a new research technique was adopted. Furthermore, information was acquired from the Internet. The search was performed for international mutual spread of the many languages and dialects in the world. Data of the dialect landscape have been collected and analyzed. By analyzing and unifying the above data, the relations between the geographic varieties of Japanese and world languages and style variation have been grasped.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：日本語学

キーワード：方言 公用語 地方議会会議録 言語景観

1. 研究開始当初の背景

日本語方言学の主な関心は、古来の日常の方言使用だった。21世紀に入り、高年層も方言を保持することが少なくなり、従来型の方言調査では、地域差がカバーできない。本研究では、新鮮なテーマとして、気づかない方言や、談話としての方言差、および公共場面での方言使用を取り上げた。また新しい研究技法を採用した。公共的場面として地方議会会議録のデータベースを活用し、さらにインターネット上から情報を得た。以上のデータを分析することにより、言語変化の発生と伝播の過程が分かった。

2. 研究の目的

本研究では、「公共用語の地域差に関する社会言語学的総合研究」という新テーマに関して、徹底的にデータを集め、分析した。従来見落とされていた斬新なテーマとして、公共場面での意識的使用、談話としての方言差および気づかない方言や方言景観を取り上げた。地方議会会議録のデータベースを活用し、新しい研究技法を採用した。さらにインターネット上から情報を得て、世界の諸言語・方言の国際的相互普及も探求した。方言景観のデータを収集して分析した。以上のデータを分析し統合することにより、日本語および世界諸言語の地理的変異と文体的変異の関連を把握しえた。

3. 研究の方法

本研究では2年間で、データ収集を行い、本格的な分析を進める予定だった。ただ作業にあたるはずの大学院生の事情により、1年間延長した。その分、研究会・国際会議などで最新の成果を公開できた。

以下研究分野ごとに分けて述べる。

1. 地方議会会議録が公開されつつあるので、研究分担者木村泰知が構築中のデータベースを拡大し、一般人にも利用しやすくした。このデータベースを活用して、多様な言語現象の地域差を分析した。ことに高丸の Ngram による文字列検索により、地

方差が明瞭に取り出された。木村、高丸が担当した。

2. 人々が意識していない「気づかない方言」を研究対象にし、文献およびインターネット調査により、地域差を確認した。これまでの研究成果を踏まえた上で、アンケートやインターネット調査を通じて新しい項目を選んだ。方言差を知るためのデータも、今はインターネット上から得られる。ことに Google 検索で、政府や自治体のような堅苦しいサイト site:lg.jp と、ブログ利用者のように若者の俗語のとびかうサイト site:2ch.net を比較して、公共用語の文体差・場面差を確認できた。

3. 方言の公共場面における意識的使用・方言景観については、方言景観における公共場面での意識的使用も目立つ。現場で大量データを集積し、新たな方言差を分析した。

4. 副産物として、半世紀前に記録された奄美沖永良部方言の手書きの語彙集をワープロソフトに入力して、インターネットで公開した。

<http://innowayf.net/>

4. 研究成果

以下研究分野ごとに分けて述べる。

1 すでに指摘されていた公的表現の地方差として、沖縄の「去った 日」が確認できて発表した。岩手の「特にも」、大阪市と堺市の「なくなす」も 13 件の発言がヒットした。また「メツチャンコ」は岐阜県の用例が見つかった。他に「シャベルとスコップ」「コップとグラス」「百貨店とデパート」「カッターとワイシャツ」などの東西差が確認できる。話題の特性から言って「学校新方言」が明らかになる可能性も大きい。「除雪」は雪国に多いが、「雪はき」は札幌だけ。ただ北陸に多い「雪除け、雪掘り」は出てこない。「よろしかったでしょうか」というあいさつはファミリーレストランなどで使われるが、東海地方に多いと言われる。議会の発言でもその傾向は見えるが、東北や近畿にも多く、くっきりした地域差は見えない。

オノマトベについて統計的手法を用いて

地域差の大きい語形を抽出する技法も開発されている。音韻、語彙、文法、敬語など従来の研究テーマに加えて、ポライトネス、談話構造などについても、分析する。文法的な表現の近代に生まれた地域差として、「～である」「～しておく」「～ている」「～かける」などの使い分けも分かる。敬語の実際の使用についても「西高東低」の傾向が出る。つまりポライトネスの観点から、議会の言語行動を分析できる。さらに談話のパターンの地域差を実証する。データ処理には、院生のアルバイトの協力を得た。社会言語学的技法を活用して分析し、国会会議録との対比にも着手する。

2 教育用語や食品名などで各地の言い方の地域差が効率よく調査できた。

視野を世界に広げ、日本国内の外国語使用の地域差、方言の中の外来語、日本国外における日本語方言の使用（主に関西弁、オオキニやマイドなど）なども調査した。後者は外行語として確立した日本語方言と言える。外行語全体としては、データベースを作って、分析し、東アジア諸国および欧米で多く使われることを確認できた。言語外要因としては地理的近接効果および経済的交流の大きさが働くことが分かり、いくつかの論文として発表した。井上および岸江、山下が主に担当した。

3 ことに東日本大震災の被災地の方言使用に着目し、「方言エール」というジャンルのデータが整理された。以前からあった方言みやげ以外に、方言ネーミングが施設、商店、街路、行事、商品などに見られた。Google map の単語検索機能も活用し、全国的にデータを収集した。Google street view で、現地に行かなくても、方言看板などを集成できた。井上、田中、Long および山下が主に担当した。エッセンスが『魅せる方言』と題する単行本としても公刊され、専門誌でも紹介された。

景観方言学の成果はカナダの国際会議の全体講演（井上史雄）で取り上げることができた。また国際的方言学インターネットジャーナルに長大な論文として載せることができた。

この派生としての方言景観の前史として、戦前方言絵はがきについては「桜井隆コレクション」を入手できた。データを整理し、スキャンして画像を公開し、かつ文字をワープロ入力して、コーパスとしてインターネットで公開した。また分析結果を紀要論文とインターネットのエッセイなどで公開した。100年ほど前の方言談話資料と位置づけることができる。現代の方言との違いが浮き彫りになった。

4 日英バイリンガルなので、国際発信に役立つと期待される。今後はこれをもとに方言と共通語の現状を調査し、公共用語としての方言使用の変遷をたどることができる。予備的考察として、現在看板などの景観として使われる沖永良部方言は、かつての日常生活語としての方言と一線を画すものと、推測された。

5 .幸いに基盤研究Cとして継続研究が許された。最終的には以上の研究テーマの成果を統合する過程にある。現時点で観察される一見多様な現象にも、統一的原理が貫徹していることを明らかにし、外国語にも適用可能な手法であることを海外に発信する予定である。逐次最新の成果を以下で公開する。

<http://innowayf.net/>

5 . 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 17件)

井上史雄 2013.3.21 日本語
の国際進出 グーグルインサイトにみる外
行語のトレンド 明海大学外国語
学部論集 25 pp.1-15

井上史雄 2013.3.31 ハワイ
と世界の外行語 質問紙とグーグルにみる
日本語使用 明海大学応用言語学研究
15 pp.93-103

井上史雄 2013.4.2A
Contemporary History of Okazaki
Honorifics - Democ-ratization and te-
itadaku
-<http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nwavap02/Inoue-NWAVAP2-2013.pdf> pp.1-9
"Working Papers from NWA
V Asia-Pacific 2

井上史雄 2013.12.4
"Dialect Lexicography and the
Standard Language— Words for Snow
and Suburban Tokyo Dialect —
" Dialectologia special issue IV
pp.93-121
[http://www.publicacions.ub.edu/
revistes/dialectologiaSP2013/](http://www.publicacions.ub.edu/revistes/dialectologiaSP2013/)

井上史雄 2013.12.9
"Change in the use of
beautifying "o—" and late adoption
A historical interpretation of data one
decade apart
" Alena Barysevich, Alexandra
D'arcy and Davi Heap (eds) Proceedings
of Methods XIV, Bamberg Studies in
English Linguistics pp.315-326
with Akemi YAMASHITA

井上史雄 2013.12.10 外行語
と外来語(日本語の攻防) 日本語学 32 卷
12月号 pp.70-7932 (15)

井上史雄 2014.2.26 ポライ
トネスの歴史地理学 Google Ngram
Viewer と Google trends による言語史
明海日本語 19 pp.1-10

井上史雄 2012.10 日本語の世界進
出 グーグルでみる外行語
おうふう 98-112 『外来
語研究の新展開』

井上史雄 2012.3.31 美化語
の「お」と幼児語「お」の全国分布
明海大学応用言語学研究 14
pp.63-74

井上史雄 2012.1.30
Improvements in the
sociolinguistic status of dialects as
observed through linguistic landscapes
Dialectologia 8 pp.85-132
[www.publicacions.ub.edu/revist
es/ejecuta_descarga.asp?codigo=725](http://www.publicacions.ub.edu/revistes/ejecuta_descarga.asp?codigo=725)

井上史雄 2012.3.21 美化
語「お」の循環過程と幼児語の「お」
明海大学外国語学部論集 24
pp.35-51

井上史雄 2011.1 Standardization and
de-standardization processes in spoken
Japanese Patrick Heinrich and
Christian Galan (eds.) Language Life in
Japan p.109-123 Routledge

井上史雄 2010.7 Real and Apparent Time
Clues to the Speed of Dialect Diffusion
Dialectologia 5 p.45-64

井上史雄 2010.3 The Time-span of
language standardization in a
modernized society 明海大学応用言語学
研究 12 p.95-106

井上史雄 2010.3 「東京新方言の重力モデ
ル」明海大学外国語学部論集 22 p.1-16

井上史雄 2010.1 S-shaped Curve of
Phonological Standardization--Six
Surveys in Tsuruoka and Yamazoe

井上史雄 2009.12 「言語変化の成人後採用文化庁世論調査による「お」の系譜」計量国語学 27-3 pp.81-103.

1. 米 麗英, 岸江 信介 : シャンハイの日本人居住地における言語景観, 徳島大学, 国語国文学, 第24号, 査読なし, No. 24, pp. 17-pp. 28 (2011)

2. 劉潔・大橋眞・岸江信介: 中国青島市黄島地区におけるショッピングセンターの言語景観, 徳島大学, 地域科学研究, 第1巻, 査読なし, pp. 57-p p. 69 (2012)

3 岸江信介. 看板・標示物にみられる禁止表現の言語景観, 世界の言語景観 日本の言語景観, 桂書房, 査読なし, pp. 218-226 (2011)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 3件)

井上史雄 2011.12.10 『経済言語学論考---言語・方言・敬語の値打ち---』 明治書院 497ps. (日本学術振興会助成図書)

井上史雄 2011.3 『北陸方言の地理的・年齢的分布(北陸グロットグラム)』 明海大学 413ps. 科学研究費報告書 井上史雄・加藤和夫・中井精一・半沢康・山下暁美

井上史雄 2013.6 沖永良部島芦清良村の方言の研究(サラ・アン・ニシエ) Asikiramuni : Studies of a Ryukyu Dialect / Dictionary of Okinoerabu dialect (Sarah Ann Nishie)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

<http://www.innowayf.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

4	0	0	1	1	3	3	2	3	2	4	0	4	2	0	6	2	0
井上 史雄								明海大学・外国語学部・教授									

()

研究者番号:

(2) 研究分担者

9	0	2	7	1	4	6	0	1	6	1	0	1	9	5	7	2	0
岸江 信介								徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授									
5	0	4	0	0	0	7	3	1	0	1	0	4	3	1	2	2	7
木村 泰知								小樽商科大学・商学部・准教授									
6	0	3	8	3	1	2	1	3	2	2	0	7	3	6	3	2	2
高丸 圭一								宇都宮共和大学・都市経済学部・講師									
6	0	2	8	9	7	2	5	4	1	2	0	5	9	9	9	2	7
田中宣広								岩手県立大学・宮古短期大学部・准教授									
1	0	2	5	4	8	2	2	1	1	6	0	1	7	4	1	2	7
半沢康								福島大学・人間発達文化学類									
1	0	2	4	5	0	2	9	3	2	4	0	4	2	0	6	2	0
山下暁美								明海大学・外国語学部・教授									

